

地理歴史 日本史 A 学習指導案

- 1 単元名 日清・日露戦争
- 2 対 象 2年F組 39名(留学1名)
- 3 単元の目標：① 日清・日露戦争に関わる歴史の過程を、国内の状況および国際情勢を踏まえて理解する。
② 既存の歴史的事象に理解を深めつつ、多面的・多角的に見ることが出来るようになる。

4 単元について

生徒観 本学級の生徒は理系選択希望者が多く、科目「日本史 A」に興味を持っている生徒は多くない。授業に対して意欲的で、静かに授業を聴くことができる反面、主体的に学ぶという点についてやや欠けているところがある。従って実際の指導においては取り組みがいのある課題を用意し、学習の意義について十分に説明する必要がある。

単元観 本単元は学習指導要領によると「条約改正や日清・日露戦争」が起こる時期であり、その「前後の対外関係の変化，政党の役割と社会的な基盤に着目して，国際環境や政党政治の推移について考察させる」必要がある。従って、基本的な通史の流れを理解させると共に、憲法発布や議会開設を経て、近代的立憲制度が一応の確立を見た後の政治過程も理解させ、それを山県有朋の「外交政略論」における朝鮮の位置づけや国際情勢等についても相関的に把握させる指導を行う。また、そういった基本的な理解を前提とした上で、歴史的事象について多角的に見る力を養うよう指導する。

主体的・対話的で深い学びの手立て

基本的な学習内容を軸とし、日露戦争が起こった過程を国内の状況・国際情勢を踏まえて考察し(主体性)、グループで他者とともに考えを精査すること(対話性)で、歴史を多角的に見る力を養う(深い学び)。

5 評価項目及び規準

①観点別の評価規準

関心・意欲・態度	思考・判断・表現	資料活用の技能	知識・理解
日清・日露戦争に関わる諸事象や展開に関心を持ち、意欲的に学ぼうとしている。	日清・日露戦争に関わる諸事象や展開に課題を見出し、国際情勢や社会状況と関連付けて多面的・多角的に考察することができる。	日清・日露戦争に関する資料から有用な情報を選択し、図表や文章としてまとめている。	日清・日露戦争に関わる諸事象や歴史的展開に関して、国際情勢や社会状況と関連付けて理解を深め、その知識を身に付けている。

②評価の観点と資質・能力との対応表

	関心・意欲・態度	思考・判断・表現	資料活用の技能
課題発見力		○	○
論理的思考力		○	○
協働力	○		
表現力		○	
英語運用能力			
社会的・国際的洞察力		○	

6 単元の指導・評価計画（全5時間）

第1時 条約改正の意義について理解する（知識理解/ワーク及び試験）

第2時 朝鮮問題と日清戦争の関わりについて理解する（同上）

第3時 日清戦争後の国際秩序と政党政治のかかわりについて理解する（同上）

第4時 日露戦争の勃発と国際秩序の変化について理解する（同上）

《本時》第5時 日露戦争について多面的・多角的に考察する（表現力/ルーブリック）

7 本時の展開

(1) 本時の目標

- ・日露戦争が起こった過程について多面的・多角的な視点に立って理解できるようになる。

(2) 本時の展開

授業展開 (時間)	○学習内容と生徒の活動 ●教員の指導と手立て	評価項目及び評価方法
導入 (12分)	<p>○生徒は日露戦争に関する基本的な理解をもとに、「なぜ国民は主戦論を支持したのだろうか」について記述し、どのような考えが出たのかを発表する。</p> <p>●発表は生徒を指名して2人に行わせる。</p> <p>○日露戦争の経緯と特徴について、日清戦争との比較も含めて復習を行う。</p> <p>●生徒に問いかけをしつつ、日露戦争が朝鮮・満州をめぐって行われたことなどを想起させる。</p>	
展開① (22分)	<p>○班に分かれる。反戦・非戦論に関する3つの史料が提示され、各班は割り当てられた1つの史料から「反戦・非戦を主張する理由」について考察する。</p> <p>○「なぜ反戦・非戦論が中心にならなかったのか」について記述し、グループで共有し、発表する。</p> <p>●活動や内容について助言を行う。</p>	関心・意欲・態度/机間指導
展開② (21分)	<p>○「主戦論」に関する諸資料から「なぜ満州が問題とされているのか」「いかにして主戦派の世論が形成されたか」について考察する。</p> <p>○上記についてグループで考えをまとめ、発表を行う。</p> <p>●上記の行動を指示し、評価規準について説明する。</p> <p>●生徒の作業を観察し、内容について不明がある場合は助言する。</p> <p>●いくつかの班を指名し、発表させる。</p> <p>●発表を踏まえ授業の総括を行う。</p>	関心・意欲・態度/机間指導
まとめ (10分)	<p>○これまでの授業のことを踏まえて、「なぜ国民は主戦論を支持したのか」についてこれまでの日本史の流れを踏まえて論述し、授業の感想とともにワークシートを提出する。</p>	<p>思考・判断・表現/ワークシート</p> <p>資料活用の技能/ワークシート</p>

資質・能力のルーブリック

資質・能力	課題発見力	論理的思考力	表現力	社会的・国際的洞察力
項目	史料の読み取り	世論の形成に関する分析	自らの考えの表現	国内・国際情勢との関連付け
十分 (A)	史料から主戦論・反戦・非戦論を主張する人々の考えを読み取り、彼らがどのような立場に立っているかを自分なりに表現している。	日本においてどのような経緯で主戦論が世論として形成されたのかを資料に基づいて考察できている。	「なぜ国民は主戦論を支持したのか」について既習事項や本授業で学んだことと関連付けて自分なりに考えをまとめている。	主戦論や反戦・非戦論が形成されてきた過程について国内情勢や国際情勢と関連付けて説明している。
おおむね十分 (B)	史料から主戦論・反戦・非戦論を主張する人々の考えを読み取れているが、史料からの引き写しに留まっている。	日本においてどのような経緯で主戦論が世論として形成されたのかを考察できているが、資料に基づいていない。	「なぜ国民は主戦論を支持したのか」について自分なりに考えをまとめている。	主戦論や反戦・非戦論が形成されてきた過程について国内情勢と国際情勢のどちらか一方にのみ関連付けて説明している。
やや不十分 (C)	史料から主戦論・反戦・非戦論を主張する人々の考え方を十分に読み取れていない。	日本においてどのような経緯で主戦論が世論として形成されたのかについて十分に考察できていない。	「なぜ国民は主戦論を支持したのか」について考えをまとめきれていない。	主戦論や反戦・非戦論が形成されてきた過程について・国内情勢と国際情勢のどちらにも関連付けて説明していない。
不十分 (D)	活動に参加していない。	活動に参加していない。	活動に参加していない。	活動に参加していない。

※資質・能力のルーブリックにおける評価基準は十分 (A) とする。